

だそうである。宜昌と国の生活改善部や一人っ子政策やジュニセフ（民間の NGO）と JICA との共同プロジェクトで、各家庭に豚を 3 匹ずつ飼ってもらい、糞尿はメタンガスで調理などに使う。豚が大きくなったらその家の収入に。とても楽しく忙しい仕事だったがモデル事業として他の地区にも広まってきているそうである。

沈さんは、今は広報を担当しているそうだが、JICA の仕事の多様性ややりがいを持ち活動しているということが伝わってきた。

### 〈福島県上海事務所を訪問して〉

上海は、面積は福島県の約半分、人口は約10倍の1900万人。上海在住の日本人は、約 2 万人で「日本人が多く住む外国の都市」だそうである。上海事務所は、「1. 中国での県内企業の円滑なビジネス活動を支援 2. 福島県への中国人観光客の誘致促進 3. 福島県産品の中国での販路開拓を促進」という 3 つの重点で活動しているそうである。



上海は、とてつもない大都市！

市村所長からは、上海は、商売しやすい、販売しやすい、生産しやすい、交通の要所である、外国人を受け入れやすい、等の特徴や中国の富裕層と貧困層の格差の問題、福島県への中国人観光客、教育旅行の誘致や難しさなどを教えていただいた。また、福島県産品の販売状況としては、加工品のみ輸入販売ができるようで、味はすばらしいので好評だが、価格の面で税率が極端に高いので、なかなか販路が広がらない状況のようであった。日本では 8 千円の奥の松が 3 万円の価格、うち半分は中国政府の税金ということであった。

教育旅行にしても、年間、長崎県には 2,800 人、長野県には 3,000 人の実績があるが、福島県には 100 人がやっとやっとならぬと、民泊と学校交流が設定できずに、実績を伸ばせない状況にあるということだった。民泊に関しては、趣旨を理解してもらい中国人を受け入れてくれる家庭を増やしていきたいということだった。

8月12日(水)

【施設訪問】 上海天地針織服装有限公司工場（上海浦東新区）

【施設見学】 浦東地区等上海市内視察

### 〈縫製工場を訪問して〉

野地社長ご夫妻は、二本松市の方である。18年続いているという工場の状況から経営の秘密を教えていただいた。この工場で作られた服はオバマ夫人も着たことがあるそうで、年間10万枚からスタートし、5、6年で35、6万枚になったそうである。現在は月産1万6千枚で年間20万枚、売り上げも6億5千万円ぐらいだそうである。



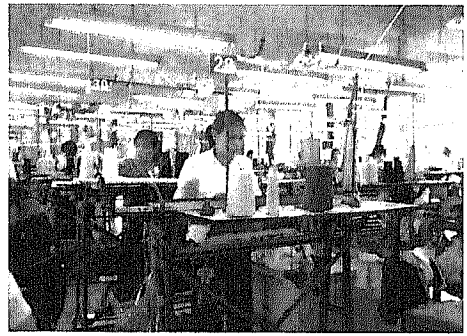
社長ご夫妻を囲んで

製品は、デザインに優れ、有名ブランドの物を手作りで作るそうだ。刺繍やビーズ、チェコの光る石などの付加価値もつくので高く売れるようである。ほとんどが日本のデパートで売られるようであるが、イタリアやオーストラリア、スペインにも輸出しているそうである。

労働者には、経験と技術が必要とされ、1枚作ったらいくら、ボタン1個つけたらいくら、糸巻き何kg

巻いたらいくら、と単純出来高払いになっているそうである。秘書や工場長で4,400～7,000元、一般労働者で4千元ぐらいの賃金だそうである。最低賃金法では、医療、養老、労保、出産、住宅などの保険も会社が掛け金を納めることになっているそうである。

中国には、それぞれの技術のプロはいるが、それらの間の穴を埋めるのが日本人とおっしゃっていた。能力を見抜き、適材適所を心がける。仕事の中身が全部知られると持ち逃げされるので、極意は教えないという現実的な厳しい話も聞くことができた。これからの教育の中に生かしていきたい。



ひたすら真剣に

### 〈上海市内視察〉

「上海城隍廟」等を視察した。活気にあふれ、すごい人ばかりだった。時計や財布を千円で売りつけにくる怪しい中国人もそこ中にいた。今までの都市ではそういうことがなかったので、上海に特に多いのだろう。中国人気質は都市によってもだいぶ違うと実感をともなって感じることができた。

上海へは福島空港から直行便が出ている。2010年には、上海万博が行われる。中国へ行くチャンスだ。



上海の有名な庭園兼お土産購入スポット

8月13日(休)

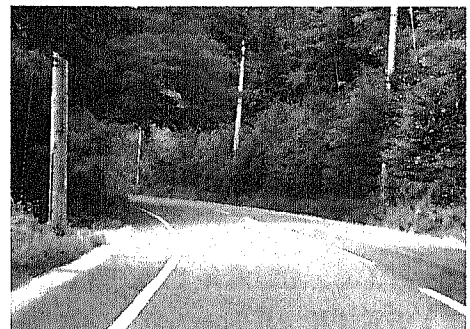
【移動】上海 → 福島

### 〈飛行機にて移動〉

上海空港9:40のはずが1時間以上遅れて出発となった。午後2時過ぎに無事福島空港に到着した。広大な中国大陸から、懐かしの日本に戻ってきた。研修の成果を生かして実践することを誓い合って解散した。



10日ぶりの福島空港



福島の道路・福島の緑

## 目次

### 【トピックス】

- ◎ 12省の中国実施機関から130名以上が参加 ..... 1

### 【ニュース】

- 天津環境管理能力向上プロジェクトがスタートしました ..... 2

- 食品安全セミナーを開催 ..... 3

- 日本の知見を四川地震被災地へ ..... 4

### ■ PATHWAYS TO HIGHER EDUCATION

- ～内陸部・人材育成事業実施大学での取組～ ..... 4

- 【帰・赴任者紹介コーナー】 ..... 5

- 【寄稿コーナー】 ..... 6

## 寄稿コーナー

JICAは、国際理解教育や開発教育に熱心に取り組んでいる先生方を対象に、10日間ほど開発途上国での研修に参加いただく「教師海外研修」というプログラムを実施しています。開発途上国の現場で、それらの国々の置かれている現状や日本との関係、国際協力への理解を深め、その成果を次世代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうことを目的としているこのコースが、今年中国でも行われました。参加者は福島県からこられた先生方6名です。今月号では、教師海外研修に参加された日本の先生が初めて見た中国、そして、青年海外協力隊員の教え子である中国の学生が初めて見た日本をお届けします。

### 日本の先生が初めて見た中国

8月3日～13日に教師海外研修が行われました。福島県から6名(小学校教諭3名、中学校教諭・特別支援学校教諭・同行ファシリテーター各1名ずつ)が参加しました。研修の主な内容は、JICAの様々なプロジェクトの状況視察や青年海外協力隊員のみなさんや中国の人々との交流、そして中国の文化を自らの五感を通して理解するということです。

訪ねた場所は、日本国際協力機構(JICA)中華人民共和国事務所、北京高碑店污水处理場、北京紅丹丹教育文化交流センター、安全生産プロジェクト、湖北省植林プロジェクト、華中師範大学、湖北民族学院付属病院・板井青年海外協力隊員(看護)、湖北民族学院・矢部青年海外協力隊員(日本語教師)、福島県上海事務所、上海天地針織服装有限

公司工場です。

短期間に、たくさんの場所で研修を積みましました。そこで感じたことは、まず、第一にJICAの活動の素晴らしさです。見学した先々の中国の方々から、「JICA・日本への感謝」の言葉や「中日の友好関係の発展」を望むという、未来志向の望ましい姿を数多く見る事ができました。これらのことから、現在までの多くの様々なプロジェクトが中国の人々に理解され、感謝されているということが分かりました。

第二に、青年海外協力隊員の方々の活動の素晴らしさです。板井、矢部両隊員他、花田、岡本、中、尾崎、内田隊員等の熱心な活動状況も知ることができました。限られた時間の中での交流で伝わってきたことは、隊員一人一人が与えられた環境の中で最善を尽くそうと努力しているということです。中国という日本とは全く違う環境の中で、中国や日本、中国人や日本人、そして自分と周りの人たちの中で、日本で暮らし生活している我々には想像もできない体験を日々しているのです。このように文章で表すと、とても深刻な感じに受け取られるかもしれません。しかし現実を

しっかりと受け止め、目的に向かって毎日を真剣に過ごされていることが分かりました。青年海外協力隊員のみなさんは、日本の友好親善大使であり、みなさんの活動の中にこそ、真の友好関係を築くものがあると感じました。

最後に、研修に先立ち、お世話していただいたJICA二本松のみなさん、そして長い研修期間の間、研修の成果を最大限に上げるべくお世話していただいた JICA 中国事務所のみなさんの懇切丁寧な対応に、心より感謝致します。今回の研修で出会ったみなさんから学んだ真摯な態度と、広大な中国で得たエネルギーな体験を生かし、今回の研修の成果を日本の子ども達の教育にぜひ生かしていきたいと考えています。「教育がよい国を作る、よい世界を作る、お互いに理解し合おうとする態度が何よりも大切！」をキーワードに、日々の実践に取り組んでいきたいと思います。

(福島県二本松市立下川崎小学校 教諭 佐久間 敏男)



北京紅丹丹教育文化交流センターを訪問



湖北民族学院日本語科の学生達と

=====  
\* 皆様からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などいただければ幸いです。いずれも中国事務所沈 曉静 (shenxiaojing.cn@jica.go.jp) へてにお願いいたします。  
=====

\* その他お知らせ

JICAのホームページ: チャイナ ライブラリー(和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/library/news/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/library/01.html>

チャイナ トピックス(和文・中文)

> <http://www.jica.go.jp/china/topics/index.html>

> <http://www.jica.go.jp/china/chinese/topics/index.html>



### 3. 実 践 報 告



# 中国の良さを発見！～日中の比較を通して～

氏名	齋藤 央顕
学校名	会津若松市立門田小学校
担当教科名	全教科
実践教科名	総合（国際理解）
時間数	10時間
対象児童（学年）	4 学年
対象人数	28名

## I. 授業実践のねらい

小学校学習指導要領第1章「総則」では、「生きる力」を育むことが最終目標であると述べられている。この「生きる力」は、各教科・領域・総合的な学習の時間等での学習を関連付け、総合的に働かせることで具現化することができる。本実践で意図する国際理解教育も、各教科・領域・総合的な学習の時間等を通して推進されることを前提としているが、現状ではこの趣旨が十分とはいえない状況がある。具体的に述べれば、小学校での国際理解教育＝英語活動といった認識で取り込まれる傾向が少なくないということである。

それに対し、本実践の立場は、小学校の段階からもっと様々な世界に目を向け、英語圏のみに限定されない広い視野をもたせることがより重要であると考えている。なぜなら、小学校学習指導要領総則の冒頭に「進んで平和的な国際社会に貢献し未来を拓く主体性のある日本人を育成する」ことが明確に述べられているからである。よって、小学校における国際理解教育においては、英語圏だけでなく、広い視野にたって様々な国々の人々に対しても、同じようなスタンスで接しさせたいと考えている。その際、ただ知識を獲得するのではなく、自ら主体的にかかわり、探求し、進んで交流しようとする態度の育成も不可欠である。これからの我が国の国際理解教育で培うべき資質・能力とは何かということ、各教科で身に付けた基礎的・基本的内容を基に体験的な学習や問題解決的な学習、自主的、自発的な学習へと発展させていく力であり、ここに小学校における国際理解教育の本来のあり方が見出されてくると考える。

本実践では、日本と関わりが深い中国について取り上げることとする。政策・貿易・金融・IT・エネルギー資源・ODA・植林等……、たくさんの分野で日本と密接な関係にある。切っても切り離せない関係にある。これからの国際理解においては必要不可欠な相手国だと考える。

いろいろな関連がある中で、小学4年生にも分かる範囲で理解を深められるように工夫して授業を進めていくことにした。実態を考えると、関係の意味や問題等まで考えられる児童はいないだろう。4年生自身の身近なことについて中国の様々な面に触れることで、楽しみながら理解を深めていければと考えた。そういったことが視点を広げることにつながり、やがては中国のおもしろさ、ひいては、他国への興味・感心につながっていくのではないだろうか。また、自国のことについてなのだが、まだ社会科で学習していないため、適宜取り扱い、中国と比較等ができるように配慮した。

今回の JICA の教師海外研修の内容は、どちらかというところ開発教育的な内容であり、小学生には理解が難しい内容である。そのため、今回の研修の経験は、実践を進める中で、必要な場合に補足説明を付け加えるような形で生かすようにした。とはいえ、実際に生で体験したことをもとにした話には、子ども達も興味津々であった。

## II. 授業の構成 (\*小学校中学年でも理解できる内容構成に厳選)

時間	指導内容	指導のねらい
第1時	いろいろな文化があるんだね (多文化主義)	日本も多民族国家ではあるが、中国ほどではない。教室を見回しても、同じような顔ばかりである。そこで、マイノリティーとマジョリティーのそれぞれの立場を、ディスクリマドットのゲームを通じて疑似体験し、そこから少数民族を尊重する必要性を考え、多文化主義を理解させる。
第2時から 第3時	たくさんの民ぞく (55以上の少数民族)	古くから伝わる歴史、現在おかれている立場などを、日本(政府広報によると、日本の少数民族はアイヌ民族のみ)と比較しながら考えさせる。
第4時	日本の自然と環境	日本の自然・環境破壊を琵琶湖の外来種(ブラックバス)問題、沖縄のマングース捕獲作戦、屋久島のたぬき、地元国立公園十和田湖の外来種問題、学区にあるビオトープ事業の池から捕獲されたブラックバスなどについて環境破壊が進んでいること、環境破壊や外来種問題は、人間が引き起こしていることを理解させる。
第5時	中国の自然と環境	この10年、平均実質成長率10%という高成長を遂げ、人口も13億人を突破した中国は、CO2排出量でも2000年には世界全体の12%を占めるなど他国を凌駕している。最近では石炭の燃焼による硫黄酸化物が原因とされる酸性雨が広く観測されるなど、中国においても深刻な環境汚染が進んでいることを理解させる。
第6時	日本と中国が環境を守るためにしていること (環境への取り組み)	日本からは、大企業の環境対策、青森県の企業のペーパーレス化、十和田市のリサイクル事業、スーパーマーケットのトレイ・牛乳パック・割り箸の回収について理解する。 中国では、環境対策の法整備を重点的に行ってきたが、自国の力だけではあまり効果が上がらず、他国(特に日本)の支援に頼らざるをえない状況にあることを理解する。さらに、中国の自然環境を保つには、日本の高い技術が必要であることを理解させる。
第7時から 第8時	中国と日本の関係	およそ1万年前(完新世の頃)から地続きで関係があったこと、それから現代に至るまで歴史的に深い関係があったことを簡単に理解させる。さらに、現代の日本文化にも影響している中国文化(漢字を始めとする)についても理解させる。
第9時から 第10時	まとめ	今まで学習して考えたことや感じたことをもとに、感じたことや思ったことを話し合い、感想を交流する。



### Ⅲ. 授業の詳細

第1時	小単元「いろいろな文化があるんだね (多文化主義)」	使用教材
学習過程	<p>ディスクリマドットゲームとは…。</p> <p>まず、背中にはられたシールが同じ人どうしでグループを作っていく。自分のシールは見えない。身振り・手振り・ジェスチャーはOK だけど、しゃべらない・くちパクもだめというルールでなかまを見つけていく。子どもたちには内緒で、一つだけなかまがいないシールをまぜておく (そのシールをはる子は、自分でくよくよしないタイプの子どもを教師が選ぶ)。</p> <p>上記のゲームを通して多文化主義の大切さを実感させた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シール</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
授業をふり返った児童の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームは楽しかったけど、だれかが一人になるとは思わなかった。もし私が一人になったら、ずっとさがしていたかもしれない。でも、そんな時、〇〇さんのようにいっしょにさがしてくれたらうれしい。私はその時いっしょにさがしてあげたらよかったと思った。これからそんなことがあったらさがしてあげようと思った。</li> <li>・今度仲間はずれの人がいたら助けてあげたいと思った。</li> <li>・相手の気持ちを考えて行動し、自分の思った意見はきちんと言う、そういう事が大切だと分かった。</li> </ul>	
第2～3時	小単元「たくさんの民ぞく (55以上の少数民族)」	使用教材
学習過程	<p>中国政府は、民族区域自治という少数民族政策を取っている。国民を、漢族と55の「少数民族」とに区分し、その民族ごとに集住地域を「区域自治」の領域として指定している。そこでは、「民族の文字・言語を使用する権利」、「一定の財産の管理権」「一定規模の警察・民兵部隊の組織権」「区域内で通用する単行法令の制定権」などを行う事を認めている。国民を構成する諸集団が、どの「民族」に帰属するかを法的に確定させる行政手続きを、民族識別工作といい、清代から民国期にかけて伝統的に「五族」とされてきた民族数は、この手続きにより56にまで増加した。現時点でもまだ、識別されていない民族、あるいは便宜的に他の民族籍に分類されている民族も多数存在するらしい。尚、中国残留日本人孤児などに由来する日系、香港・マカオの返還にともない中国の国民となった英国系、ポルトガル系は、少数民族としては扱われていない。</p> <p>そんな中で、これらの少数民族には、各自の言語、文化を維持する権利が保証されている。特に各少数民族語を教授言語とする初等中等教育が原則保証されているが、実際是北京語以外による高等教育は認められず、また少数民族語を教授言語としても、各少数民族史の授業を認めないことが同化政策として問題視されることもある。また、少数民族の優先的な上級学校進学、公務員採用などのアフターマティブ・アクションも採られ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・ウイグル族のビデオ(民放)</li> <li>・世界白地図</li> <li>・地図帳</li> <li>・色鉛筆</li> </ul>

	<p>ているとされ、この恩恵に浴するため漢族が少数民族を詐称することが問題になっているという。また、西トルキスタンとの関係が深く、石油資源などが豊富なウイグル族の分離独立等の問題もある。</p> <p>以上のような実態をプレゼンテーションにより説明しながら進めた。</p>	
授業をふり返った児童の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じ国なのにたくさんの民族がいて驚いた。日本でそんなことになったら、どうやってコミュニケーションをとればいいのか分からない。</li> <li>・ いろいろな民族がいるのなら、争い等はやめて仲良くして、お互い良い所を取り入れていけばいいと思います。</li> <li>・ 全然考え方が違う民族をどうやって統一しているのか不思議に思った。中国はただでさえ大きいから統一するのが難しいと思う。</li> </ul>	
第4時	小単元「日本の自然と環境」	使用教材
学習過程	<p>インターネットで検索しながら日本の環境問題について理解を深めた。子ども向けのサイトとして、「地球温暖化を考えようー子どものための地球環境問題専門サイト」(<a href="http://www.ecology-kids.jp/">http://www.ecology-kids.jp/</a>) や、「しってるかな? 外来生物 (環境省こどものページ)」(<a href="http://www.env.go.jp/nature/intro/kids/index.html">http://www.env.go.jp/nature/intro/kids/index.html</a>) 等を中心に、いろいろな環境問題について理解を深めることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネット</li> <li>・ ブラックバス模型</li> </ul>
授業をふり返った児童の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブラックバスのことはテレビなどで見て知っていたけど、カブトムシ等も問題になっているとは知らなかったので、びっくりした。</li> <li>・ いろいろと私たちの生活が便利になる中で、それにつれて、環境が壊されていくことを残念に思った。便利にならない訳にもいかないし、どうすればいいのか考えていく必要がある。</li> <li>・ 人間が環境を壊しているのだから、直していかなければならないと思う。</li> </ul>	
第5時	小単元「中国の自然と環境」	使用教材
学習過程	<p>中国では大きく分けて3つの環境問題が深刻である。</p> <p>まず、水汚染である。工業廃水汚染と生活廃水汚染の二つがある。工業や生活レベルの発展に伴って、被害が拡大している。</p> <p>次に、大気汚染である。人口の爆発的な増加によって、電力の供給がおいつかない状況になっている。そのため、火力発電所をフル稼働させている。それにとまって、石炭燃焼が増加、二酸化硫黄 (SO<sub>2</sub>) や総浮遊顆粒物質 (TSP) ・一酸化炭素や二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>) の量も増えている。当然、酸性雨も多くなっている。</p> <p>その他、ゴミ問題・自動車の騒音問題・砂漠化問題が進んでいるとのことである。</p> <p>インターネットを使って、日本と比較しながら説明をしていった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネット</li> <li>・ ワークシート (日本との比較)</li> <li>・ 地図帳</li> <li>・ JICA研修視察の写真 (ダム・川)</li> </ul>

授業をふり返った 児童の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と似ている環境問題が多いことにびっくりした。</li> <li>・国が大きいので、自分達の力ではどうにもならないから大変だと思った。でも、環境が悪くなるということは、地球全体には良くないので、みんなで考えていかなければいけないと思った。</li> <li>・日本のような外来種の問題はないのか疑問に思った。調べてみたい。</li> </ul>	
第6～7時	小単元「日本と中国が環境を守るためにしていること (環境への取り組み)」	使用教材
学習過程	<p>外務省発行のパンフレットや福島県環境センター (<a href="http://www.pref.fukushima.jp/kance/">http://www.pref.fukushima.jp/kance/</a>) を参考にしながら、現在日本で行われている環境への取り組みについて話し合った。そんな中で、日本の環境への取り組みは、世界でも最先端の取り組みが多く、多くの企業で行っているということを知ることができた。実際にインターネットで調べてみても、たくさんの大手企業での取り組みが紹介されている。</p> <p>しかし、それでも環境汚染は良くなるどころか、少しずつ悪くなっているという現状だということを知らせた。</p> <p>とりわけ、中国については、世界でも一位、二位を争うくらいに環境汚染が進んでいる。その主な理由としては、石炭依存社会(煤煙・煤塵が環境に悪い)・地域格差(環境への取り組みの違い)・人口問題が挙げられる。ただ、自国による取り組みがほとんど機能していないということを説明した。</p> <p>そこで、日本による資金協力・技術協力の必要性と重要性について知らせた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット「地球環境問題に対する日本の取り組み」</li> <li>・動画</li> <li>・子ども環境白書(H20版)</li> <li>・インターネット</li> <li>・二酸化炭素排出量の推移グラフ(拡大印刷)</li> <li>・JICA研修視察の写真 (下水処理場・植林事業)</li> </ul>
授業をふり返った 児童の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の環境対策がすごいと思った。だけど、それでも環境汚染が進んでいるから、どこが悪いのか不思議に思った。</li> <li>・私も何かできることがあったらやっていきたい。そして、それをみんなに伝えたい。みんなでやらないとよくなると思う。だから、中国のことも助けてあげたい。</li> <li>・なぜ中国は自分の国のことを自分でやらないのかと思う。大きい国だけど、人もいっぱいいるんだから、たくさん税金を集めればいいと思う。</li> <li>・先生は、実際に行ってみた下水処理場や植林についても説明したが、そういうことが行われているのは一部だけだそうだ。そういうことをどうやって、広めていけばいいのだろうか。お金がかかりそうだ。</li> </ul>	
第8～9時	小単元「中国と日本の関係」	使用教材
学習過程	<p>まず、中国と日本の歴史的なつながりについて6年生用の社会(歴史)の教科書を用いて、簡単に説明した。その中で、漢字や着物等、つながりが深いことを確認した。</p> <p>その上で、現代における中国と日本の関係の重要な部分(貿易・政治・経済等)と問題(尖閣諸島・食の安全・核兵器等)について、新聞の記事を使って説明し、実際に身近な問題として起こっているということを感じさせた。</p>	

	<p>その後、どうしていけばいいのかについてみんなで話し合った。</p> <p>その結果、やはり、どちらも考えていく必要があるという結論になった。また、一部の児童からは、最近の天皇陛下訪問等の話題についても出された。</p>	<p>・ JICA研修視察の写真（野地社長の縫製工場・福島県上海事務所）</p>
授業をふり返った児童の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冷凍ギョウザ事件のこともあるが、食べ物がたくさん日本に入ってきているので、気をつけてほしい。こういう意見をどうやって中国に伝えればいいのか。</li> <li>・ いつも着ている服はほとんどが中国製なので、やはり中国との関係は良くしておいた方がいい。</li> <li>・ ぼくの大好きなゲームも中国で作られていることが多く驚いた。なんで中国なのかなあとも思った。</li> <li>・ 中国は、日本より文化は発達していないが、大きくて力がある国なので、戦争とかしないで協力していきたい。</li> </ul>	
第10時	小单元「まとめ」	使用教材
学習過程	<p>単元始めに行った中国の印象アンケートに、今の印象を書き込ませ、それを比較して思ったことを話し合わせた。そして、最後のまとめとして、一人ずつ感想を発表させた。</p>	<p>・ ワークシート（アンケート）</p>
授業をふり返った児童の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国に対してあまり良い印象が無かったが、すごく変わった気がする。</li> <li>・ 全く知らないことが多かった。隣の国なのに初めて知ることが多かった。</li> <li>・ 実際に関わってみないと分からないこと多いと思った。見ただけでは分からない。</li> <li>・ テレビでは、中国は悪い国みたいな感じで言っていたが、思ったより大切な国だった。</li> <li>・ 中国を助けていきたい。そして、みんなでいい世界にしたい。</li> </ul>	

#### IV. 授業の成果

「中国の良さを発見」をテーマに授業を進めてきた。本来的には、国際理解というのは、相手を理解すること、ひいては自分を理解することなのだという所までたどりつき、友達に対しても関わり方が変わることを期待していた。中学生になって自我がある程度発達してしまっている状態だと、われわれ大人と同じで、人に対して凝り固まった固定観念で見えてしまう。それは、自分の視野を狭めることに他ならない。自分の成長のためにも、周囲のためにも、広い視野で人に接する良さとその必要性についてまで踏み込んで指導しなかった。時間的にも、今年度は新型インフルエンザの影響もあり、他の学年まで広めることができなかった。

しかし、そんな中で、子ども達は、それまで全く関心の無かった中国に、担任が研修に行ったことをきっかけに、少しずつ世界を広げていった。それまでは、テレビ等で作られた情報を知ることしか無かった子ども達は、全く新鮮な生の情報に多に興味を示し、自分達で国際的な問題についてまで熱心に話し合うまでになった。そのことが、現時点での一番大きな成果であると思う。近くて遠い国…隣国「中国」との関係は、切っても切れない関係である。これから交通がさらに発展し、中国との関係も更に発展していくだろう。そんな未来を担っていくのは、他ならぬ今の子ども達である。そんな子ども達の一部にだが、少

しでも中国の良さを伝えられたならばうれしいことである。また、同時に、この実践を通して、広い視野で自分や相手を見つめることの良さにも気づいていってくれたらと心から願っている。

## V. 課題

大きな課題として3つのことが挙げられる。

1つ目は、時間的な問題である。ある程度の大規模校だと、学級で同じ単元をやらなければならないという大きな枠組みがある。そんな中でどのようにして、時間を確保するかである。また、総合的な学習の時間には、大きなテーマがあり、その学習が一番のメインである。そんな中で、国際理解学習は一部ではない。これを一部の学級だけで、メインにするわけにはいかないのである。今回は、特別に配慮して頂いたが、保護者に対しても説明が難しい所であると考え。本格的にやるとすれば、3月の年間指導計画作成段階で、起案し、話し合いを深め、年間の活動として位置づける必要がある（ただ、次の年の担任が自分だとは限らないので難しいが）。

2つ目は、内容的な問題である。自分は成果にも書いた通り、今回の国際理解教育では、単に知識の伝達にとどませたくは無かった。しかし、深く教えるためには、教師自身が深く知っていなければならない。しかも、それには生の体験が伴っていないと難しいだろう。そう考えると、中国を含め、英語圏以外の国についての内容を教えるというのは、大変ハードルが高いことである。今年は、教師海外研修という大変ありがたい機会があって、中国に行くことができたので良かったが、便利になったとはいえまだまだ外国に行くのは簡単なことではない。

また、ある学年だけ中国をテーマにするとか、今年の〇年生だけ中国を総合でやる、というのも異論が出そうな展開である。もっと、たくさんの教師がいろいろな国について理解を深め（国際理解をし）、各学校でどんどん、諸外国のことを取り扱ってほしいと思う。

3つ目は、国際理解における体験活動の確保である。今回の実践は、ともすれば、知識の伝達に終始してしまっていた。今度からは、こういう教材を生かして体験的な活動を確保できるように工夫していきたい。

最後に、この研修で出会った全ての方と JICA に感謝し、お礼を言いたい。本当にありがとうございました。

## VI. 参考資料

- 小学校「総合的な学習の時間」の年間指導計画（明治図書）
- 時間をかけずに楽しくのりきる「総合的な学習の時間」（子どもの未来社）
- 国際理解教育リンク集（HP）
- 京都市小学校国際理解教育研究会（HP）
- 英語で国際理解教育—小学校でやってみよう！（教育技術 MOOK）

# 中国に学ぶ・これからを考える

氏名	佐久間敏男
学校名	二本松市立下川崎小学校
担当教科名	全教科
実践教科名	総合（国際理解）
時間数	8時間
対象児童（学年）	6学年
対象人数	8名

## I. 授業実践のねらい、構成等

1. 単元名（活動名） 中国に学ぶ・これからを考える

2. 対象：二本松市立下川崎小学校

第6学年 8名

その他（他学年、保護者等）

授業者：佐久間敏男

カリキュラム開発の視点

	1	2	3	4
A多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
Bグローバル社会	相互依存	情報化		
C地球的課題	人権	環境	平和	開発
D未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	

3. 教科領域との関連性：

総合的な学習の時間

社会

道徳

4. 実施時期：2009年9月～12月

5. 総時数：8時間 \* 1時間=45分

6. 単元（活動）目標

- 中国に対する関心を深め、中国を知ろうとする意欲を高める。 【意欲・関心】
- 見たり聞いたりした事実を自分なりに考え、正しく判断しようとする。 【思考・判断】
- 見たり聞いたりしたことをもとに、自分の考えをまとめることができる。 【技能・表現】
- 中国について正しく理解する。 【知識・理解】

※開発教育／国際理解教育の考えから、中国をきっかけとして、他の国、そして自分の国日本、自分の考え方や生き方へ生かせるような学習としていく。

## 7. キーワード

- 感想
- 勉強になったこと
- 心に残ったこと
- 同じこと
- 違うこと
- これからの生活に生かす

## 8. 単元について（教材観・単元設定の理由・開発教育／国際理解教育の視点など）

中国は、地理的には日本の隣国で近い距離にあるにもかかわらず、精神的にはとても遠い国なのではないだろうか。つまり、あまり理解されていないのである。逆に、様々な事件や事故のために、危ない国として理解されているのではないかと思うのである。この傾向は、大人ばかりでなく、児童にも見られるものと思われる。

私自身の研修前後の中国のイメージは、下の表の通りである。

視 点	b e f o r 教師海外研修	a f t e r 教師海外研修
経 済	貧富の差が激しい。高度成長。	その通りだった。電気自転車や高級乗用車が走り、人の往来も多く活発である。物価が安いので、日本人にとっては生活しやすい。現地の人にとっては物価が上がり生活は苦しくなっているのではないか。
考 え 方	お金・物欲第一主義の人が多いのではないか。昔の方が良かったのではないか。	人によって違うので何とも言えないが、交流した日本語を学ぶ大学生達はみな真面目で、しっかりした考えを持ち、学校生活を送っているようだ。日本語もとても上手だった。教育に対する考え方もしっかりしている学生もいて、とても共感できた。
生 活	近代化・現代化が進んでいる。大量生産、大量消費。	その通りだった。国の大きさもあってか、そのスケールの大きさは、日本の常識では考えられないかも。道の広さ、ビルの大きさ、外国車の多さ、しかし、昔の文化も大切にしている。健康意識も高いのではないか。
教 育	差が大きい。	地方の学校の様子とかは分からないが、大学生の様子や大学の施設は大変しっかりしており、町が一大学園都市となっているところもあった。（湖北民族学院）地方は先生の確保さえ難しく、上級生が下級生を教えるような光景もあるらしい。

私自身、研修に行く前と後では、中国や中国人に対する考え方や開発教育／国際理解教育に対する考え方も確実に変わってきた。行く前の限られた情報からのイメージと行って実際の中国を見聞して得た情報からのイメージは、違って当然である。また、知らなかったことがある程度理解できると、そのことが一面的なことではないかと疑問を抱いたり、さらなる疑問も湧いてくるのが自分自身のカルチャーショックであった。私の中のこのような変化を感じさせることは、これからの時代を生きる児童にも有益であると考え、児童と共に研修の成果を共有すべくこの単元を設定した。

まずは、中国へ対する理解を深め、そこからどんな国にも、そこに住む人にもいい面ばかりではなく、別の面もあり、それは国と国の場合ばかりではなく、自分と周りの人との間でも言えることであり、大

切なのは自分以外のことに興味や関心を持ち、正しく理解、判断をし、これからの自分の考え方や行動に反映させていくことである。このような流れに沿って、児童の生活が豊かになることを願って実践していきたい。

\*学習指導要領等とのかかわり

「教育基本法 第一章 第二条 五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」

「学校教育法 第二章 第二十一条 三 我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」

「学習指導要領 第1章 総則 2 学校における道德教育は、道德の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道德の時間はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達段階を考慮して、適切な指導を行わなければならない。道德教育は、～他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し～。」

「学習指導要領 第2章 各教科 社会〈第6学年〉 1目標 (2)日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解できるようにし、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにする。」

「学習指導要領 第3章 道德〈第5学年及び第6学年〉 4主として集団や社会とのかかわりに関すること (8)外国の人々や文化を大切にすることをもち、日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。」

「学習指導要領 第4章 外国語活動 第2内容 2日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。(2)日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気づくこと。」

「学習指導要領 第5章 総合的な学習の時間 第3指導計画の作成と内容の取り扱い 2(7)国際理解に関する学習を行う際には、問題の解決や探究活動に取り組むことを通して、諸外国の生活や文化などを体験したり調査したりするなどの学習活動が行われるようにすること。」

## 9. 連携（関係性）について：JICA 二本松

## 10. 展開計画・展開記録

※中国の研修の前と実践後に児童にアンケートを取り、児童がどのように変化したかをとらえる。また、中国の研修先の大学生や協力隊の方々にも協力してもらい、中国や日本についての考えや将来の生き方に関するアンケートを取り、実践に生かす。

(1) 今の中国を写してきたビデオや写真を見て（2時間）

○適宜解説を加えたり、質問に答えたりしながら見せる。

○学習後の感想を残す。

(2) ○○な国、中国に注目！（1時間） ※保護者も含めた授業参観日に実施

○掲示資料、配付資料を使う。

○学習後の感想を残す。

(3) 国際理解・四川大地震の時に ～ 私達にできること ～（2時間）

○普段の生活の中の助け合いについて考える。

○四川の場所、四川大地震について確認する。



- JICA 中国事務所 でいただいた DVD を見せる。
  - 感想を話し合い、助け合いについて考える。
  - 学習後の感想を残す。
- (4) 中国ってどんな国? ～ 中国の小学生の生活 ～ (2時間)
- 大事なことをメモしながらビデオを見せる。
  - 学習後の感想を残す。
  - 資料を見ながらビデオを見る。
  - 質問項目について考える。
  - ビデオから考えたことを出し合い、これからの生活について考える。
- (5) 中国で出会った人から学ぼう (1時間)
- 協力隊員、日本語を学ぶ大学生の考え方を知る。
  - アンケート結果の内容を知る。
  - 学習後の感想を残す。

## 11. 評価

【意欲・関心】 評価方法：記述、言動、行動観察

○ 中国に対する関心が深まり、中国を知ろうとする意欲が高まったか。

【思考・判断】 評価方法：記述、言動、行動観察

○ 見たり聞いたりした事実を自分なりに考え、正しく判断することができたか。

【技能・表現】 評価方法：記述、言動、行動観察

○ 見たり聞いたりしたことをもとに、自分の考えをまとめることができたか。

【知識・理解】 評価方法：記述、言動、行動観察

○ 中国について正しく理解することができたか。

※ 開発教育／国際理解教育の考えから、中国をきっかけとして、他の国、そして自分の国日本、自分の考え方や生き方へ生かせるような学習となったか。

## 12. 苦労した点

◇ 内容の精選が難しかった。

各学習毎に伝えたいことはある程度明確だったので、伝わったと思うが、発達段階と情報の精選や学習内容の焦点化が難しかった。

やりたかったことは、次の通りだったが、講師との連絡調整などができず、計画のみに終わってしまったものもあった。(◎は実施済)

〈中国に関してやりたかったこと〉

- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| ◎ 簡単な報告会、冊子作り           | ○ アンケートの比較検討と授業の実践       |
| ○ 中国と日本の概略把握            | ◎ 中国の文化の紹介と日本の文化         |
| ◎ 国際協力と国際理解 (・ JICAについて | ・ 協力隊の活動について ◎ 旅で出会った人々) |
| ○ 戦争と日中間の交流について         | ○ 中国の食べ物 (中国の方の招聘)       |
| ○ 中国語について (中国の方の招聘)     |                          |

## 13. 改善するとしたら

◇ 各種アクティビティーを活用して効果的に指導する。

◇ 中国をきっかけとして、日本や他国、自分や身のまわりの人に関する内容の話し合いの時間を多くする。

- ◇活用する写真やビデオは、見せる目的を考えて効果的に活用する。
- ◇自分一人の価値観で指導するのではなく、講師の活用も図る。特に中国関係者の協力をいただく。
- ◇JICA二本松に協力していただき、JICAの取り組みの説明や協力隊の方々のお話をお聞きする。
- ◇児童の学習の成果をポートフォリオに残す。
- ◇児童の学習の成果を授業参観等で、保護者や地域の方々に発表する。

#### 14. 授業作りのための参考資料

- ◇一子どもを世界につなげるースタディーツアーを生かした国際理解教育／開発教育教材集
- ◇東書ニュービデオソフト 新しい社会38 「中国ってどんな国」 (東京書籍)
- ◇小学校学習指導要領

## II. 授業の詳細

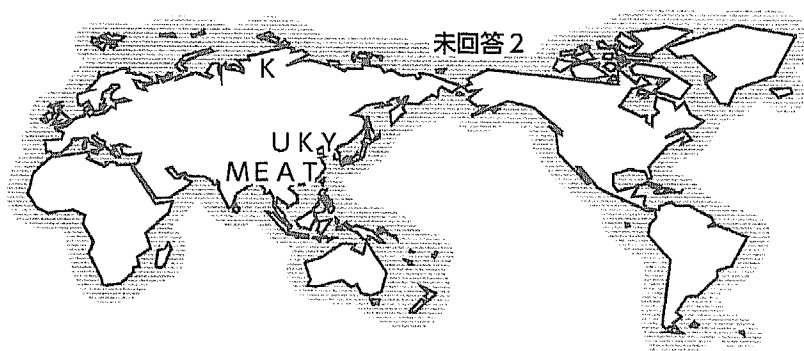
#### 15. 学びの軌跡 (全体の成果とともに個人の学びを確認するため、アルファベットは個人を表す。)

(※は授業者の考察)

#### 中国アンケートまとめ (研修前)

5、6年の児童と親に協力していただいた。

##### 1 下の地図の中で中国の場所に色をぬってください。



※中国が日本の西隣ということはあるが、北側や南側の範囲が曖昧。

##### 2 中国の大きさは日本の何倍ぐらいの大きさだと思いますか。

- 25倍ぐらい
- 23.5倍ぐらい
- 10倍ぐらい
- 8倍ぐらい
- 6倍ぐらい
- 5倍ぐらい (2人)
- 3倍ぐらい

※日本の約26倍ある。正解に近い児童もいるが、中国の大きさに関心がないようだ。

##### 3 中国の人口は日本の何倍ぐらいだと思いますか。

- 10倍ぐらい (5人)
- 8倍ぐらい
- 5倍ぐらい (2人)

※日本の約10倍ぐらい。なかなかいい予想をしている。

##### 4 日本のいいところはどんなところですか。

- 四季 (春夏秋冬) がある。 (3人)
- 自然が豊か、多い (3人)

- 食べ物おいしい。(3人)
- いろいろなものがある。
- お金持ち
- (今は)戦争がないところ、平和(3人)
- いいところがたくさんあるところ
- 清潔

※「自然」「食べ物」「平和」「歴史」  
によさを見出している。

- 安全
- 古くからの歴史

5 日本で問題だと思うことはなんですか。

- リストラや働きたくても働けない環境を作っている。不景気。(2人)
- あまりにももの多くて、子ども達も外で遊ぶことがなくなっている。
- 犯罪者がいなくなる(3人)
- 二酸化炭素をいっぱい出している。
- 食料の自給率が低い。
- いろいろな問題が山積みになっていること
- 人間としてのマナーやルールがなくなっていること
- 子どもの数が少なく、お年寄りが多くなっている。

※「環境破壊」「不景気」「少子高齢化」「食糧自給率」「犯罪多発」など、多くの問題に気づいている。

6 中国のいいところはどんなところだと思いますか。

- 国土が広いところ(3人)
- 広いので場所によっていろいろおもしろいところや違いがある。
- いろんなものを作っているところ
- おもちゃなどがたくさんあるところ
- いろいろな種類の食べ物がある。
- ウーロン茶などがおいしそう。
- 自然が多い。
- 古代からの歴史があること

※「土地の広さ」「食べ物・お茶」「好景気」「自然」「歴史」「仕事勉強熱心」などをプラスに評価している。

- 景気がよさそう。
- 仕事や勉強に熱心である。

7 中国で問題だと思うことはなんですか

- 食品の中にいろいろなことが混入していること、餃子のこと、安全じゃないものがある。(4人)
- いろんなものが壊れやすいこと
- 地球温暖化
- ディズニーランドを勝手にまねしているところ
- 砂漠化しているところがある。
- いろいろな詐欺などがある。
- 社会主義国家
- 民族同士で平和じゃないところ

※「食品偽装」「民族問題」「汚い」「砂漠化」など危ないイメージを持っている。

- きたない
- 暴動が多い。

8 あなたは中国についてどんなことを知っていますか。

- あまりわからない。でも、中国の人と仕事をしたときがありますが、とても頭がよくてはるかに日本人よりも物覚えがいいと思いました。
- 大きい門があること。
- 中国人はきれいな顔をしていること
- 輸入・貿易していること(2人)
- オリンピックをやったところ
- 人口が多い。
- お金のある家庭と貧しい家庭の差が激しい。

※テレビなどからのイメージが多いようである。

- 昔、日本と戦争していた。
- 辛い料理がたくさんある。(キムチなどが有名)
- 民族がいろいろある。
- 自転車を使用している。

○通貨単位が元。

○万里の長城がある。

○面積は世界で3番目に大きい。

### 9 佐久間先生に中国についてどんなところを見てきてほしいですか。

○日本の教育の仕方と中国の教育の仕方違うと思うので教育熱心な先生なので見てきてほしいです。

○中国の大きい門（2人）

○町の風景など（2人）

○万里の長城

○日本とは違った建物や料理などを見てきてほしいです。

○生活の仕方の違い。

○学校の様子（2人）

○中国と日本の子どもや大人の違い

○家やスーパーはどんな作りか。

※外面的な部分、内面的な部分、文化の違い、教育の違いに関心がある。

### 10 おみやげはどんなものがいいですか。

○子ども達が喜ぶものがないと思いません。

○絵本

○ブタの貯金箱

○音楽CD

○キーホルダー（キーホルダーやお菓子）

○中国にしかないもの

○ドラゴンボールのシール

○三国志関係

○何でもいい

○パンダのキーホルダー

○ストラップ（2人）

## 今の中国を写してきたビデオや写真を見て

最新の中国の情報を加工せずに提供した。研修の順路に沿って、プロジェクターで映した。現地で購入してきたジャスミン茶を試飲させた。

〈感想・勉強になったこと（1回目）〉

○中国の方が活発でせわしく活動しているんだと思いました。

ジャスミン茶がおいしかったです。ワンタンもおいしそうでした。U

○日本にはない物がたくさんあって、とても新鮮でした。行ってみたいと思いました。ワンタンがおいしそうでした。お茶もおいしかったです。中国にはいろんなごちそうがあるんだ～と感心しました。M

○高速道路はけっこう日本と似ていました。ビルなどが日本と比べてすごくでかかったです。今日は、お茶も飲めたのでよかったです。はんこがすごいと思いました。中国に行って作ってもらいたいです。S

○日本とは違いビルが高かったし、いっぱいあったし、自転車の人は危険でした。お茶を飲んでよかったです。ワンタンを食べたかったです。H

○北京のことがいっぱい知れてよかったです。お茶がおいしかったです。Z

○ビルがいろいろな形でおもしろい。よく作れたと思いました。ワンタンがおいしそう。もし中国に行ったら食べたいです。Y

○ビルが日本よりも大きかったです。ワンタンがおいしそう。D

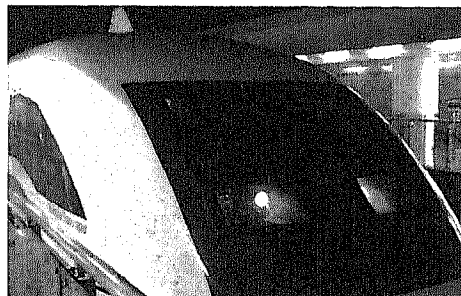
○北京ではビルの形が変だった。T

※ビデオや写真を見て、日本との違いを実感していた。また、ジャスミン茶を試飲させた。劇的ではないにせよ一人一人の中で「カルチャーショック」が起こり、中国に対して関心が高まった。



### 〈感想・勉強になったこと（2回目）〉

- 中国で日本語を習っている人達の日本語がちゃんと話せていたのすごいいいと思いました。U
  - リニアモーターカーがとても速そうで、乗った時は楽しそうだと思います。M
  - リニアモーターカーがすごかったです。大学生は先生を目指していてすごいいいと思いました。S
  - 大学生の日本語が上手でびっくりしました。H
  - いろんなことが知れてよかったです。Z
  - リニアモーターカーに乗ってみたいと思いました。Y
  - 430kmも出てすごい速そうでした。D
  - リニアモーターカーは、最高430kmだったと聞いてびっくりしました。T
- ※日本語を学ぶ大学生とリニアモーターカーを写してきたビデオを見せた。中国の現実についての理解が進んだ。写真も効果的だが、ビデオは音声も入っているので一層現実的にとらえることができたようだ。



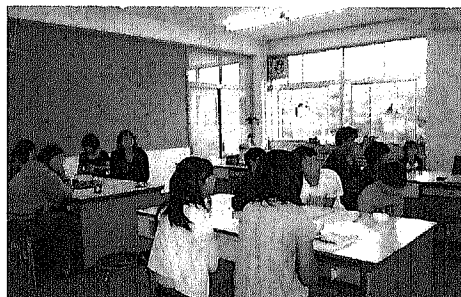
### ○○な国、中国に注目！

授業参観で親と児童に研修の様子を伝え、中国に対するイメージの更新を目標に授業を行った。

中国や中国人に対するイメージ→中国や中国人に対するイメージは変わりましたか？授業を参観した感想をお願いします！

- にぎやか、文化がいろいろ、たくさん。  
→中国は建物やビルなどしかないと思ってたけど、樹木で緑を増やす活動をしているのだと思いました。U
- 人がいっぱい、いろいろな文化、すごく活気がある、いろいろなビル、面積広い、昔から日本と貿易、日本にはないものがたくさんある。  
→厳しい社会の中で、工夫して働いている人がたくさんいてすごいいいと思いました。M
- 面積が広くて、人口がすごい。  
→中国はいろいろなビル等があってすごいいいと思いました。ぼくもはんこを作ってもらいたいいいと思いました。S
- 人がいっぱい、トイレは日本より違う、食べ物が違う、日本と違うのがある。  
→中国のことがだいたい分かったので、中国に行ってみたくなりました。Z
- 空気が汚い、大きい、広い、人口が多い。  
→物価が安い、活気がある。行ってみたいと思った。Y
- 中国はいっぱい人がいないと思ってた。  
→いっぱいビルがあってすごかったです。D
- 自転車が多そう。  
→自転車じゃなくて、車やバイクが意外と多かった。T

※授業参観での実践なので、大人も含めて中国に対するイメージが変わったようである。福島空港から上海まで飛行機で4時間程度の距離と聞き、地理的距離とともに心理的距離も縮まった気がする。大人は大人なり、子どもは子どもなりに中国に対するイメージがあり、それは個人個人バラバラで、想像の世



界や今までの知識から作られた想像上の中国であったが、この授業を通して現在の中国についての理解が更新され、さらに理解したいという気持ちが高まった。

## 国際理解・四川大地震の時に ～私達にできること～

中国の JICA 事務所で研修した際にお聞きした内容をもとに、いただいた DVD を活用して授業をした。  
アイスブレイク「自己紹介・名前と一言（担任佐久間が中国に行ってきたことについて）」

### 1 今までどんなときに募金をしてきましたか。それはなぜですか？

- いわき中学生心臓手術、赤い羽根。M
- 困っている人を援助するため。H
- 災害の時とかに募金をしました。D

### 2 四川大地震について知ろう。

- 約9万人が亡くなってしまった。かわいそうだと思った。H

### 3 四川大地震の際に日本が取った行動について知り、感想を持とう。

#### (1)医療班……心に残った言葉や心に残ったことをメモしよう。

- 日本が被災者を助けてくれた→中国の人、日本の医療班に感謝している。寝返りの時、話をする時にとっても心の支えになってくれた。U

- たくさんの人の治療をして、最後までいろいろな面で患者さんに尽くしていたのがすごいと思った。M

- 日本の人たちは、中国の人を精一杯助けてきてすごいと思いました。S

- 地震があった時に、すぐに日本が助けに行ったのが素晴らしいなと思いました。あと、中国の方に感謝やほめられてすごいし、尊敬できると思いました。H

- 同じ目線でしゃがんで話しているところがいい。友情。Y

- 日本が四川大地震の時に、いろんな人を助けて心に残りました。D

- 紙で書いて伝える。日本がすごくたくさんの人に役立っていることが分かってよかったです。T

#### (2)捜索班……心に残った言葉や心に残ったことをメモしよう。

- 一人はみんなのために、みんなは一人のために、徹夜で捜索をした。→遺体が見つかった。中学校で生存者はもういなかった。→見つからなかった。厳しい条件、中国は日本に感謝！お礼をもらった。＝中国人は本当は優しい。U

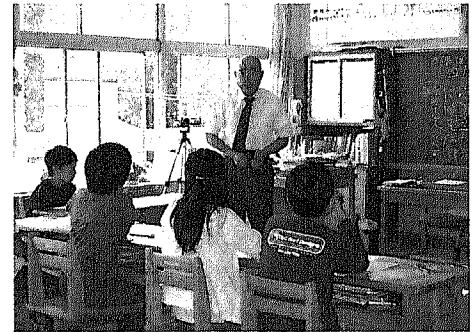
- どんな場所でもあきらめず何時間も捜索していたのはすごいと思った。M

- 初めて中国に日本が行ってすごいと思いました。一人のために徹夜をしてすごいと思いました。S

- 見つからなくても探して、最後は手作業で親子（の遺体）を見つけられてすごいと思いました。あと、感動しました。いきなり自分達の家がくずれてしまい、大変だと思いました。助けたり、見つけたりした時、「ありがとう」と言われて、中国の人たちはすごく優しい人たちだと思った。H

- 夜中まで一日かけて、あきらめないで助けて、感謝。昔、戦争したりしていてもそんなことは考えずに、助け合うのは大切。Y

- 中国に日本の人をやった。日本の救助隊が中国に行った。徹夜から探して見つけてすごいと思った。D



○16人の死体を見つけた。ネットで感謝という字が多い。生きていないと分かっているけど探して。T

#### 4 心に残ったことを発表し合い、話し合おう。

グループで話し合おう。……時間が足りず、いきなり全体で行った。

全体の場で発表し合い、話し合おう。

#### 5 そういう事態が起こった時は、どう行動すべきか考えてみよう。

#### 6 学習のまとめと記念撮影をする。

#### 7 参観者からのお話を聞く。

〈学習後の感想〉

○中国人と日本人（中国と日本）はそんなに仲はよくなかったのに、災害があればすぐに助けてくれることがあることが分かりました。U

○日本人の外国での活動が分かった。思いやりの精神を大事にしたい。M

○助け合う心がすごかったです。日本人の活動がすごかった。S

○助け合いなど、人を助ける心などがすごく分かりました。H

○自分のことだけじゃなくて他の人のことも考えて生活したい。Y

○日本と中国は前、戦争をしていたのに助け合って人を助けて心に残りました。D

○困っていた人がいたらすぐ助ける。T

※児童にとってこの授業は、中国と日本との関係を理解し、四川大地震という災害の際の救助隊や医療班の活動から、国同士の助け合いの大切さを知ると同時に、身近な者同士の助け合いの大切さを感じ取らせるところまで触れることができた。このような実践の繰り返しが必要だと思った。

## 中国ってどんな国 ～中国の小学生の生活～

社会の授業と関連して「中国ってどんな国？」（東京書籍）のビデオを使って実践した。

### 中国ってどんな国？ I

……中国に対するイメージを確認した上で、中国の小学生の様子をとらえさせる。

#### イメージマップ I (Aグループ)

国の特徴（人がいっぱいいる、ビルが多い、変わったビルがある、広い）

国の場所（日本からあまり離れていない）

動物（パンダ）

イメージ（イメージが悪い、ちょっとひどいところがある、昔だから家がいっぱいある、汚い）

文化（ラーメン、中華料理、カンフー）

戦争（戦争、危うく植民地に）

貿易（貿易、車がいっぱいある、経済の発展、おもちゃが世界一、野菜、メーカーが多い、物価が安い）

#### イメージマップ II (Bグループ)

スポーツ（少林拳、カンフー、太極拳、スポーツが強い）

有名なものがある（いろんな伝統、いろんな有名スポット、虎



やパンダが有名)

物がいっぱい (服などをいっぱい作っている、車や自転車が多い、物が安い)

料理 (宴会が好き、宴会事が好き、料理がたくさん、スパイスが多い)

建物 (ビルが多い、いろんな形のビルがある、ビルが多くて高い)

悪い人 (悪い人が多い?! 薬物が多い、物がこわれやすい=詐欺、看板の事など無視して釣りなどをしてる)

その他 (土地が広い、人口が多い、工場が多い、川が多い、森林を増やす活動をしている)

※中国に対する今までの実践からの情報を整理することができた。この後、中国の都会と田舎の小学生の生活を紹介したビデオを見るので、そこで新しい情報を取り入れることになるだろう。

#### 〈一人一人のメモと学習感想〉

○中国から日本へ (漢字、はし、仏教) 儒教・孔子 (親孝行、お年寄りを敬う) マンション=お金持ち、金持ち、田舎でも、ブタ+アヒル+ニワトリ、四階建ての学校、今の中国=昔の日本

〈学習感想〉中国は日本と似てると思った。都会でも田舎でもお金持ち (裕福) だと思いました。U

○学校の朝礼、国旗を揚げる、武道が盛ん、授業、クラブ

〈今日勉強になったこと〉中国は日本とは違う文化があり、とても興味深かったです。朝礼でいつも国旗を揚げるのには驚きました。M

○儒教 (孔子) 親孝行、お年寄りを敬う、いろいろな授業がある、都会と田舎は違う、健康づくりが盛ん、手伝いをよくする

〈学習感想〉中国は都会が全部だと思っていましたが田舎などもあって昔の日本とあまり変わらないのが分かりました。S

○長い歴史がある、お茶やはしは中国から伝わった、学級は47人が4クラス、授業がいっぱいある、食べ方などが決まっている、儒教は親やお年寄りを敬う、田舎でも裕福、家畜を飼っている、授業が始まる前に歌を歌う、少林拳や太極拳をやっている、親の手伝いをする、家で食料をほとんど作っている、中国は武道が盛ん、外で遊ぶ、中国の田舎は昔の日本に似ている

〈学習感想〉思っていたより自然が多くて、田舎の方は昔の日本に似ているというのでびっくりしました。カンフーなども盛んだと思いました。H

○ヨーグルトの時間があっていいと思った、数学は中学生からなのにあつてすごいと思った、自然などを初めて知った、お金持ちの家みたいですすごい、かまどが日本よりも大きい、手の挙げ方が横じゃなくて縦、学校に自転車通っている人がいる

〈今日勉強になったこと〉中国は、悪いところがあるように見えても、結構いいところだと分かってよかったです。行ってみたいと思いました。Z

○学校の朝礼、国旗を揚げる、体操、全校生で、武道、カンフー、少林、コンピューター、クラブ、授業

〈今日勉強になったこと〉中国の学校は、体操や武道をしていて日本とは違うと思いました。Y

○古い歴史がある、石油や石炭、電気製品、農家では自由に作る、儒教、親孝行、お年寄りを敬う、文化を作り上げていった、漢字、お茶、仏教、学校は靴を履いたまま入る、普段は自由な服だけど集まる時は制服、1クラス47名、5年生は4クラス、休み時間は10分、算数は算数の先生がやっている、全員で体操をする、その後ヨーグルトを食べる、英語は4年生から、ご飯とおかずに分かれている、教科書がいっぱいある、コンピューターは4年生から、放送部は校長先生にインタビューとかしている

ホテルみたいな家に住んでいる、自分の靴下は自分で洗う、ご飯などのおかずは食べやすい大きさ、山くらい分けてはいけない、1粒も残してはいけない、ピアノなど夜に一生懸命がんばっている

田舎の生活、おかゆなど食べる、台所のかまどが大きい、アヒルにえさをやる、みんなで歌う、52名、



羽根けりなどをして遊んでいる、カンフーなどをやっている、おばあちゃん達も広場に行ってやっている、農業を手伝っている、家では食べ物を乾燥させたりしている、1日の仕事が終わったら団らん  
 (勉強になったこと) 中国のいろいろなことが分かったのでよかったです。教科書とかいっぱいあってすごかったです。D

○漢字、はし、茶、山のように分けるのはいけない、ブタを飼ってる、豪華マンションに住んでる、少林拳をやっている、ほとんど家で作っている、学校が四階建て、水田と畑がある。

〈学習感想〉中国はマンションと水田や畑があつたりして、思ったより日本ぽい。T

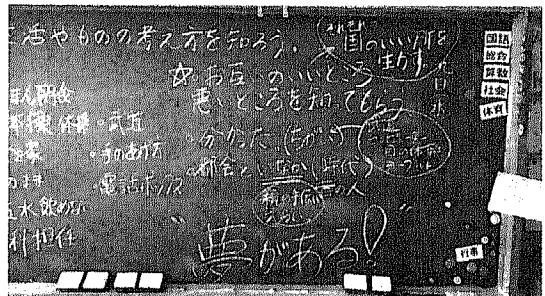
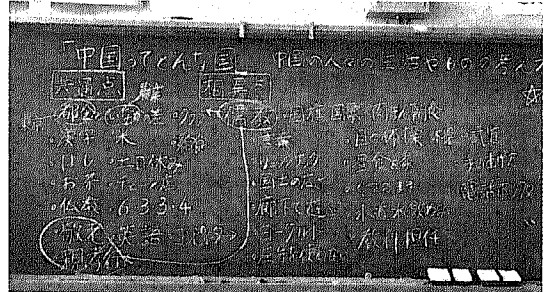
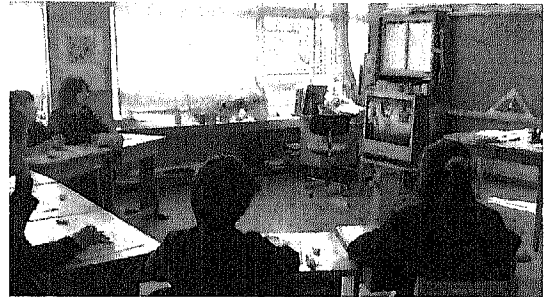
※中国の小学生については、研修では交流できなかった。しかし、教科書会社の社会科のビデオに「中国ってどんな国?」というのがあり、今回の実践に役立つ物となった。同じ小学生ではあるが国が違えば、生活も変わることを知り、大変効果的だった。

## 中国ってどんな国? II

日本と関係の深い国、中国の小学生、都会で暮らすジン・ハオチーさんと農村で暮らすトウ・アさんの生活を中心に中国の人々の生活やものの考え方を知ろう。※前回インフルエンザで休んでいた者もいたので、配付資料を作成した上で活用し実践した。

### 日本と同じこと (共通点)

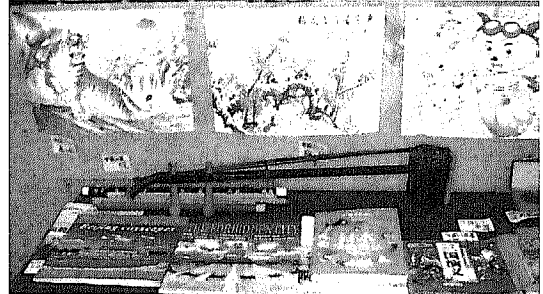
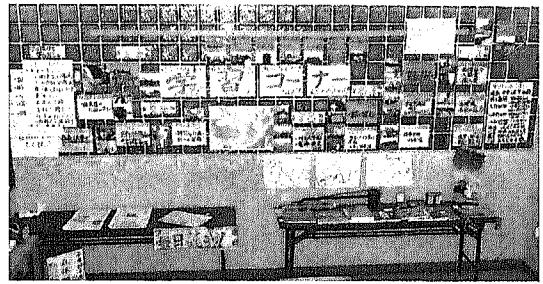
- 主食が米。
- はしを使う。
- お茶を飲む。
- 漢字を使う。感じが似ている。
- 学校は、5日制で土日が休み。
- 学校は8:00~15:20、休み時間は10分。
- 国際化へ向けて英語を習っている。
- クラブがある。
- コンピューターの時間がある。
- 小学校は6年。中学校3年。高校3年。大学4年。  
小中学校が義務教育。
- 運動会、学芸会、遠足の行事。
- 家庭教師が来る。
- 田舎では農業。
- マクドナルドなどのチェーン店。
- 親孝行、敬老の文化。
- 仏教。
- 都会と田舎ですごい差がある。



### 日本と違うこと (相違点)

- 面積が広い。
- 資源が豊富 (石油、石炭)。
- 言葉。
- ランドセルではなくリュックサック。
- 靴のまま教室へ。
- 教科毎に先生がかわる。

- 家で昼ご飯を食べる人がいる。
- 電話ボックス
- 朝の会で国旗を揚げ、国歌を歌う。
- 1学級47名。
- 学校は9月スタートの2期制。
- 簡単な漢字。
- 廊下で遊ぶ。
- ヨーグルトを食べる時間がある。
- 水道水が飲めない。
- 食べる時に左手を使わない。肘をついている。
- コンピューターの時間がある。
- 目の体操の時間がある。
- 手の挙げ方。
- 少林拳など武道が盛ん。
- 朝肉まんを食べる。
- 儒教。



◎ジン・ハオチーさんの生活についてどう思いますか？

- マンションなんてぜいたく～!! (ホテルみたい) U
- 都会の小学生は、どこでもすることがきっちり決められている感じがした。M
- ホテルみたい。S
- 裕福な暮らしをしている。H
- 家が高層住宅で、中も広くてすごい。Y
- 家でお昼を食べる人もいてすごかったです。D
- マンションに住んでいて豪華。T
- 夢は宇宙飛行士。

◎トウ・アさんの生活についてどう思いますか？

- 昔の日本みたい。家畜がいっぱいでうらやましい。お年寄りを敬うのが日本と同じ。U
- 比較的自由な感じがした。M
- 田舎と都会は違う。仕事の手伝いをいっぱいしている。S
- 昔の日本のような暮らしをしている。H
- 豚などの動物を飼っていてすごい。Y
- カモなどを飼っていてすごい。D
- 都会と全然違う。T
- 武道や歌や踊り→元気さや素直さを伸ばす。夢は、科学者になること。

☆中国と日本のつながりで気づいたことや考えたことを書きましょう。

- 同じところと違うところがあった。似ているところもたくさんあった。顔つきや文字がちょっと似てる。U
- 中国と日本は似たところがあるので、それはお互いの国のよいところを活かし合っているからだと思いました。M
- 生活で漢字を使うなど似ているところもあるけれど、違うと思いました。学校生活がとても違う。Y
- いろんな共通点や相違点がある。T

○顔つきや生活は似ているけれど、日本人と完全に違うところもあるんだろうな。でも日本人も一つにはまとめられないから、一人一人の生き方や考え方を知ることが大事だと思う。

☆これからの生活の中で、今日の学習は、どんなことに生かせそうですか？国際理解には、どんなことが大切だと思いますか？（夢や希望について）

○日本と中国のいいところ、悪いところをよく知ってもらえばいいと思った。違いが分かった。都会と田舎で時代が違うみたい。田舎の人は手伝いをして偉い。学校生活が大違い。私の夢は、有名な漫画家になって、ペット屋さんやペットの美容師の仕事をしたい。U

○自分の国だけでなく、外国のことに興味を持って積極的に学習するのが大切だと思います。その中で今日の授業は大事な学習だったと思いました。日本も夢や希望を持てば景気も上がると思いました。M

○都会と田舎で、田舎の人は、親の手伝いをして偉い。中国の人達みたいにもっとでかい夢を見たいです。S

○都会はにぎやかだけど、田舎は昔の日本のようで違いがあると思った。ぼくの夢は、歴史上の人達の謎を解く人。H

○ぼくは現実的な夢しか考えていなかったけど、DVDを見て、大きい夢も大切だと思います。Y

○生活のことが分かってよかったです。ぼくは、中国の人の方が大きな夢があってすごいと思いました。D

○ぼくの夢は、車を直す人だったけれど、総理大臣になること。T

○夢を持ったり、家族とのつながりを大事にしたりすることが大切。

※同じビデオを使った2回目の実践であるが、1回目よりもより詳しく見ることができたようである。特に、「同じ」と「違う」を観点に、同じことも違うことも数多く見つけることができた。

また、ビデオに出てきた中国の小学生の様子から「夢や希望を持つことの大切さ」を学び、考え方の変容が見られた児童が多かった。

## 中国で出会った人から学ぼう

担任の佐久間先生が中国で出会った中国人大学生や協力隊隊員の方について知り、自分なりに感想をまとめる。

〈中国で出会った人の話から分かったこと考えたこと〉

○中国の人は、夢などがあってすごいと思いました。中国の人は人数が多くて大変だなと思いました。D

○日本と中国では逆のところがあると思った。（人口増加や少子化、環境問題など）JICAの人は、いろいろな国の人のために働いてすごいと思いました。中国の人は、いろいろな考えを持っていると思いました。Y

○人口が多くて大変。中国の人も日本の困っているところなどもよく知っている。JICAの中国に行っている人も話し相手があまりいなくてかわいそうでした。S

○人口が多いのが問題なのがよく分かりました。JICAの人々は国のためにがんばっていてすごいと思いました。T

○お互い、将来はそれぞれの国に行っておきたいと思っている人がたくさんいるが、それ以前に中国、日本のことを一人一人が理解しないといけないと思った。自分の国の問題にも真剣に考える人がいると分かった。M

○毒ガス用のマスクがあるなんて初めて知りました。Z

